

第1回潮来市部活動地域移行検討委員会 議事録

1 日時 令和4年11月24日(木) 19:00~20:30

2 場所: 潮来市役所 第一会議室

3 出席者

潮来市教育委員会 教育長 横田 直樹

検討委員会

委員長 学識経験者 仲澤 進

副委員長 潮来市立潮来第一中学校 校長 諸星 通哉

委員 潮来市立日の出中学校 校長 石上 政人

委員 潮来市立牛堀中学校 教諭 小川 悠太

(県東地区中学校体育連盟)

委員 潮来市立日の出中学校 教諭 高橋 哲也

(県東地区吹奏楽連盟)

委員 いきいき ITAKO スポーツクラブ 副会長 鴫田 幸功

委員 潮来市スポーツ少年団 本部長 飯島 康弘

委員 学識経験者 錦織 俊雄

委員 潮来市立潮来第一中学校 PTA 会長 横山 真

委員 潮来市立潮来第二中学校 PTA 会長 宮本 直之

委員 潮来市立日の出中学校 PTA 会長 兼原 儀弥

委員 潮来市立牛堀中学校 PTA 会長 内海 哲也

オブザーバー 潮来市立潮来第一中学校 PTA 横山 恵美

オブザーバー 潮来市立潮来第二中学校 PTA 関沢 智香

オブザーバー 潮来市立日の出中学校 PTA 伊藤 理枝

オブザーバー 潮来市立牛堀中学校 PTA 小川 恵

オブザーバー 潮来市立牛堀中学校 PTA 田中さおり

(潮来市女性ネットワーク委員)

事務局

潮来市教育委員会 教育部長 埴 誠一

潮来市教育委員会 生涯学習課 課長 吉川 増夫

潮来市教育委員会 生涯学習課 課長補佐 永山 由治

潮来市教育委員会 学校教育課 課長 村田慎一郎

潮来市教育委員会 学校教育課 学校教育指導室長 五喜田 満

潮来市教育委員会 学校教育課 課長補佐 大川 敏幸

潮来市教育委員会 学校教育課 学校教育指導主事
潮来市教育委員会 学校教育課 学校教育指導主事

高野 和之
石山 強

4 会議次第

- ・開会
- ・検討委員並びに事務局自己紹介
- ・潮来市部活動地域移行検討委員会設置要綱について
- ・委員長及び副委員長の選任
- ・教育長あいさつ
- ・諮問
- ・協議（司会：委員長）
- ・閉会

【議事録（概要）】

（議長）

潮来市部活動地域移行検討委員会設置要綱第6条第2項に基づき、委員の過半数が出席しているので、本委員会が成立していることをここで報告する。

(1) 潮来市の部活動の現状について

（事務局）

生徒数の急激な減少により、団体競技などで、各中学校単位での活動が厳しくなってきた。実際、夏以降、軟式野球部は単独でチームを組めない学校部活動が4校中3校、サッカー部も何校かチームを組めず、試合には合同チームを編成し参加している。

また学校部活動は、顧問・副顧問の原則2人顧問での運営が原則だが、潮来市では中学校の小規模化による教員数減少により、2人顧問制が維持できず、教員一人にかかる部活動業務の負担が増えつつある。

（委員）

日の出中のバレー部は女子のみだが、練習に参加を希望する男子が3人いた。保護者も高校につなげたいとの意向があった。部活動の意義は、異学年の同好の者が互いを高めることだから、保護者や部員と話し合い、女子バレー部に練習生として参加する形にした。その後隣接市の公立中学校から男子バレーの合同チームを組みたいとの依頼があり、保護者と話し合い、PTAに文書を出した上で、合同部活動を認めるに至った。

(2) 国や県の動向について

（事務局）

※国から出された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」「文化部活動の

在り方に関する総合的なガイドライン」「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」の概要説明

※県から出された「部活動の運営方針」「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革に関する提言」の概要説明

ここ数年で、国や県レベルでの部活動改革への動きは急激に加速している。この原因として、深刻化する少子化に伴い、部活動の持続性が危機的状況になりつつあることや、教師志願者の減少、多忙化が及ぼす教師の指導への影響などがあるものとする。

(議長)

私は 50 年前に、オーストラリアで柔道を教えていた。オーストラリアには学校部活動がない。日本の学校部活動はいろいろな意味で、生徒の健全育成に大きな力を発揮してきたと思う。部活動に燃えている教員が沢山いるはずである。ただ、全体から見れば、教職員の労働時間の問題や、いろいろなことが負担になっており、国の動向としてこのようなことが出てきたので、かなり難しいがスムーズな転換ができればよい。指導者の問題、安全性の問題、いろいろ問題があると思うが、ここで話し合いながらいい方向に進めたらと思う。

(3) 潮来市のスポーツ・文化各団体の現状と課題について

(委員)

まず、潮来市の生徒と顧問数が減少している。部活動の数に応じた複数顧問制で対応しているが、なかなか追いつかない。顧問は専門的な教師は少なく、その負担感もあると思う。それでも先生方は子供たちの成長を楽しみにして頑張っている。大会数が多くても、そのために練習を頑張っている。また、部活動以外にも強化練習というのがあり、学校の部活動とは別に、その担当の教員が日曜などに参加しているという現状がある。

(副委員長)

部活動の置かれている状況は変革の中にある。私も委員長と同様、部活動に専念してきたので、今それを変えていくことは難しい。けれど全国的な動向を見ると変えていかなければならない。市内の中学校の動向を見ても、合同部活動のことも視野に入れて取り組まなくてはならない。少子化も考え、避けることは難しい。ただ、どこからというのも難しいかなと考えている。

(議長)

中体連や運動部活動の状況や課題などについて説明をお願いしたい。

(委員)

私が現場から肌で感じるのは、生徒のやる気や指導している教員の熱心さである。その中で少子化により、チームは単独で出たいがなかなか難しいという話を聞く。自分の経験でも、他市チームと合同になり、休日しか合同練習ができないのが正直苦しかった。そのときは自分の専門外の種目であり、専門的なことを教えてあげられないと自分自身

感じることもあり、他の先生方もそこで苦しんでいるのではないかと感じている。

(議長)

吹奏楽連盟や吹奏楽部活動現場の状況や課題などについて説明をお願いしたい。

(委員)

吹奏楽連盟は、全日本吹奏楽連盟というトップの組織があり、その下に、県、各地区、と吹奏楽連盟がある。それに応じて7月から地区大会、県大会、東関東大会、全日本とコンクールを主催している。秋には、アンサンブルコンテストがある。それぞれ中学校の総体や新人戦に相当するものである。吹奏楽連盟が中体連と違うところは、大人の部から小学生の部まで全て網羅されていることである。吹奏楽連盟を担っているのは殆ど教員であり、地域移行に向けて大会運営など課題は多いと思う。

(議長)

統合型スポーツクラブいきいき ITAKO の状況や課題などについて説明をお願いしたい。

(委員)

旧八代小学校を拠点にクラブとして活動している。現状は、ほぼ高齢者中心で、悠々とスポーツを楽しむ活動が中心である。ただ、潮来や行方・鹿嶋の一部の中学生が所属し、バスケットボールを何カ所かで行っている。

私個人としては、スポーツ少年団が教師から保護者などに指導者を移行するときに関わらせていただき、ゆくゆくは中学校でも同じようになるのではと感じていた。今回そのような機会に関わることになり、これまでの経験を活かして協議していきたい。

(議長)

潮来市スポーツ協会及び文化協会の状況や課題などについて説明をお願いしたい。

(生涯学習課長)

中学校の運動部活動の競技種目は、だいたいスポーツ協会にもある。(今年度)夏の頃からスポーツ協会の会議で、部活動地域移行についてお話をしてきた。また現在、競技によるが、中学校の外部指導という形で指導者を派遣しているので、正式ではないが、運動部活動は、スポーツ協会が協力できるところがあるのではないかと。

文化協会には、コーラスや絵画、書道などいろいろある。学校の要望を受けて指導者を派遣し、絵の指導などで協力をしている。ただ、吹奏楽についての指導は難しい。

(議長)

潮来市スポーツ少年団の状況や課題などについて説明をお願いしたい。

(委員)

現在、潮来市のスポーツ少年団はスポーツで分けると、剣道、野球、サッカー、テニス、バスケ、ボート、水泳の7つある。課題としては部活動地域移行と同様で、子供たちの減少の影響である。また、指導者は学校の先生方と同じように熱心に指導しているが、人数に限りがあり確保が難しいのも課題である。なるべくよい形で子供たちがスポ

ーツできる環境を実現したい。

この会議で話し合い、時間をかけて移行していくにあたり、現在の中学生の保護者だけでなく、これから中学校に入ってくる子供たちや保護者にも現状が伝わるとよい。

(4) アンケート(児童生徒、保護者、教職員)結果について
(事務局)

※児童生徒へのアンケート結果について説明

※保護者アンケート結果について説明

※教員へのアンケート結果の速報値を紹介

(5) 潮来市部活動の地域移行に向けてのご意見
(議長)

保護者として参加された委員から、地域移行についての考えをお話いただきたい。

(委員)

地域移行で先生方の負担が減るということは確かにあるが、その負担を周りに振るといことはうまくいくのかなという不安はある。部活動とクラブチームによる大会が、これまでの方法でうまくいくのか。また、これまで同様、部活動に力を入れたいという先生がいると思うが、その先生方はどうなっていくのか。

(議長)

兼職兼業の許可を得てやっていくということではないか。

(事務局)

許可を得て、先生でとしてではなく、地域人として行うことになる。

(委員)

今までの説明で、(地域移行の) いろいろなパターンや、アンケートによる現状が理解できた。今後、部活やクラブの加入はどうなっていくのか。すでに小学校からスポーツ少年団に入っている子と、中学校からどんな部活をやろうか選ぶ子がいると思うので、前もってケアが必要ではないか。後はいろいろな親の負担、金銭や送迎をどうやっていくのか、今後一つの中学校でやっていくのか、全部まとめてやっていくのか、それらについて説明していただいているが、検討が必要と感じた。

(委員)

茨城県のPTAの中でも、部活動地域移行が最も関心の高い問題であり、大規模なアンケートを行ったり会議をしたりしている。小学校4年生が進学するときが、地域移行の時期であり、その保護者へのケアはしっかりとお願いしたい。また、現在潮来市にない運動部や文化部を増やすことはできるか。地域移行により選択肢が増えるのであれば、大きな意味をもつ。指導を希望する先生については、アンケートでは現在40%の先生が対応できると答えているとのことだが、転勤もあり40%を維持し続けることは難しいの

ではないか。転勤しても維持できるような体制と、どうしても指導を続けたい先生へのケア（PTA調査によると18%いたそうである。）をお願いしたい。

（委員）

ざっくりすぎてよく分からないところがある。これから話し合いを進め煮詰めていくと思うが、潮来市から「このように進めたい」と細かく出してもらい、それに対して意見を言いたい。ここはちょっとできないとか、できないことが保護者から意見が出ると思うので、その辺をお願いしたい。

（議長）

率直なご意見ありがとうございます。潮来市では総合型の形態はないのではないかと。

（生涯学習課長）

スポーツ協会があてはまる。

（議長）

スポーツ協会がそうということか。また、教育委員会の中でコーディネートをするのかとか、細かなところは今後協議していくことになると思う。各委員のこうしたいとの思いを聞かせていただきたい。

（委員）

潮来市の部活動の地域移行を、中だけで考えがちだが、議長からあった「海外では部活動はない」などや、例えば、中学校では地域移行をしても、高校ではどうか。変わらないのではないかと。

（議長）

変わっていくだろうと考える。

（委員）

県立と私立では一律ではないのではないかと。そういった情報を共有して検討委員会で考えていかないと、よいアイデアは出ないのではないかと。

（議長）

確かに、高校の部活動やスポーツ少年団との関係も大切である。今のところ高校は、まだ確かな方向は出ていないが、働き方改革の部分で徐々になりつつあると思う。

（オブザーバー）

自分の子供がボート部・ボート少年団に携わり、以前は土日両方とも弁当持ちで練習をやってきた。今は、片方は休みとなったが、今まで潮来選抜として全中優勝、連覇などしてきたので、それだと練習時間が確保できない。今年から、希望する子供は練習時間を確保するために、スポーツ少年団に登録することになった。これは地域移行と同じことではないか。練習の指導者が代わることでマイナスのイメージがあるとのアンケート結果があったが、今のところそんな感じはなく、よい方向にいつている状況である。お金の面、登録料、保険料など別途かかるからやらないというアンケートどおりになっている状況もある。ボート部が先行して地域移行をやっていることを周知したらイメー

ジしやすいのではないか。希望する部活がないから、無理してやらせたくないという保護者の意見もあり、これからますます部活をやっていく人は減っていくのではないか。

(オブザーバー)

自分の子供がバスケットをやっていて、クラブチームへの地域移行の中、学校の顧問の先生が担当してくれたので、移行がスムーズにいった。しかし、部員が増えていったときのトラブルの心配や、移動やお金の負担も大変である。もし中学校が全部合併をしたら、移動の心配はなくなり、そこに先生以外の指導者が入ってくればよいと思う。中学校がばらばらなら、クラブチームに入るといった話も出てくる。移動時間がかかっても構わないという保護者もいる。

(議長)

この30年で子供たちの数は半数になった。将来的に潮来市の中学校が一つになるかは分からないが、高校でも同じある。子供達への教育活動を維持して成果を出すためには、合併は将来的には避けられないと思う。

(オブザーバー)

統合すれば送迎の問題はないから、そこに学校の先生が出てきて、地域が助けてくれる、平日でもできるとか、先生もそこで活動でき、保護者の送迎の負担は減ると思う。でも地域移行となれば、部活動とクラブで、ユニフォームやその他、負担が倍になる。

(オブザーバー)

保護者の間では、送迎や費用の負担が出てくるのが心配だと言う声が多い。子供達も部員がギリギリの数では、体調悪くても、無理して出るなど思い切って休めない。吹奏楽の保護者から、(地域で)指導して下さる方はいるのかという不安が聞かれた。また楽器はどうするのか、合同練習のときどうやって運ぶのか、などの心配も聞かれた。

(委員)

私は、音楽を専門に中学校で吹奏楽部の指導をしてきた。部員の生徒が卒業して高校に行っても吹奏楽部がない場合があり、卒業生を対象に、地域の市民バンドや市民吹奏楽団を作ったこともあった。近隣市では、銚田市・鹿嶋市・神栖市にある。しかし、潮来市にはそのような団体がないので、これを機会に中学生も一緒に活動できるような形ができればいいと思う。指導者は市内に経験豊富な方がいるので、そういう方を中心にできればいいと考えている。

吹奏楽連盟については非常に歴史が長く、日本の吹奏楽の文化というのを作りあげてきた。ある有識者の話では今後このような状態が続くと、何年か後に吹奏楽の文化も消えてしまうだろうという意見も出されている。だから、何らかの形で吹奏楽の文化が続くよう、みんなで知恵を出し合えばいいなと思う。

(委員)

吹奏楽部に関連した意見だが、楽器が古いので買ってほしいとの保護者の意見が出されている。

(議長)

楽器は学校単位で買っているのか。

(委員)

楽器により、各学校単位や個人で購入するものがある。今の状況や部員数で見ると、各学校でよい楽器が眠っているのではないか。実際に一つにまとまったときには、きちんと楽器を揃えられるのではないかと思う。

国や県から指針が出ているが、大枠の部分だけ作っているので、結局各学校の事情や市の事情に任せる部分が多いと思う。詳しいことは分からないという話もあったが、心配せずに、市でできることを独自に考えていけば、十分対応できるのではないかと思う。

(議長)

この検討委員会で一番大事なことは、生徒が楽しく活躍できる場をどうやって作っていくかということであり、いろいろな意見を出し合い、よい方向に向ければと思う。いただいた意見を整理し、次回以降検討を進めていきたいと思う。冒頭にあったように、本委員会は、土日の移行をどのような形にするか、まずは令和5年度に答申できるよう、皆さんには、意見をぎっくばらんに出していただきたいと思う。

(事務局)

今後の進め方は、検討委員会で決めていくことになる。事務局としては、令和5年末には、検討委員会により答申をまとめていただき、教育長に手交いただければと考えている。そこまでに、各学期一回程度の開催、本日も含め、合計5回の開催を見通して今後委員長が調整・決定するものである。

(6) 今後の進め方

(事務局)

別紙「休日部活動の地域移行に向けた今後の地域移行の見通し」は、決定事項ではなく参考資料としてご理解いただきたい。次回検討委員会の具体的な開催期日について、委員長と調整の上、後日改めて連絡する。

(7) その他

(議長)

その他にあればお願いしたい。

(委員)

この検討会を5回行って、どこまで進めていくのか。それを確認したい。

(議長)

方向性をもう決めなくてはならないということである。

(委員)

ここで方向性を決めて、それを市が形にしていくということか。

(議長)

(検討委員会で) 形にしなくてはならないと思う。

(委員)

潮来市の地域移行の形を作るまで、検討をするのがこの検討委員会ということか。

(議長)

全国でいろいろなパターンがもうできている。例えばコーディネートを行政主導でするのか、新たな組織を作るのか、総合スポーツクラブがそれを主でやるのか、スポーツ協会がとりまとめるのかとか、それらを見て、では潮来市としてはどれが適切なのか、それを検討することになる。

(委員)

検討したことは検討で終わるのではなく、形になっていくということか。

(議長)

形にしてもらわなくては困ると考える。

(教育部長)

第一回目ということで、皆さんに市の現状や国の動向を知っていただいた。そして最後のところで皆さんからいろいろご意見をいただいた。そして、部活動に関しては令和の大改革ということで、検討いただき、答申をいただく。

加えて、実際にできるのか、予算や人的な配置、県や国のバックアップなどがどうなっていくか、まだはっきりしていない部分がある。答申イコール実践という形でできればよいと考えるが、新たに課題が出てくることも予想される。外部のご意見、そして競技団体の摺り合わせをしつつ、令和7年度までにできれば理想であるが、国からは、地域の状況に応じ、どういう組織でやっていくかということは、市町村に委ねられている。

(議長)

令和10年の完全移行に向けて各市町村もやっていくという形になるかと思う。今までずっとあった学校部活動を地域移行することは大変なことだと思う。そのやり方をどうするのか、みんながここで話し合えればと思う。だから、いろいろな情報ももらい、いろいろな意見を踏まえて、最終的に判断できればいいなと思う。

(委員)

オブザーバーが参加する場合、今回と同じ方か違う方か各学校で相談してもよいか。

(事務局)

相談していいと思う。

(進行)

ボート部の話は、我々も成功事例と認識している。そこで一緒にやっている方に話をしていただくのはよいと思う。バスケットクラブをつくっている方の話も同じである。いろいろ話をお聞かせいただき、進めることができたらと思う。

(議長) 以上で、本日の議長職を解かせていただく。

(進行) 以上で潮来市部活動地域移行検討委員会を閉会する。